

令和7年産 仙南稲作情報（第2号）

令和7年6月23日発行
宮城県大河原農業改良普及センター
TEL：0224-53-3496 FAX：0224-53-3138
※この資料に関する問い合わせは、
上の連絡先までお願いします。

- ほ場により有効茎数が確保されています。
- 高温対策のため、中干しを行い適正な茎数を管理しましょう！
- 残苗は必ず処分しましょう。
- 気温が高く推移しているため、幼穂形成期が平年よりも早まる可能性が高いです。追肥の準備は早めに行いましょう。

1 気象経過

- ・6月4日から平均気温が平年を上回る高温傾向で推移し、特に15日から平年よりも4℃以上高くなった影響で、期間全体で平均気温が高く（+2.7℃）、日照時間も多かった（142%）。
- ・東北南部は6月14日頃に梅雨入り（平年：6月12日頃）。

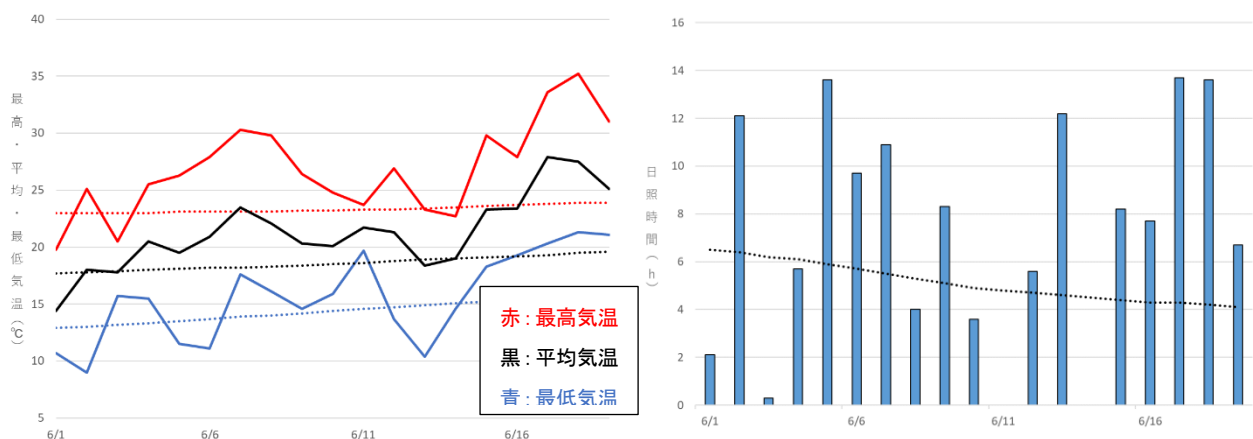


図1 気象経過（丸森アメダス、6月1日～6月19日）

※仙台管区气象台（6/19発表）の「向こう1か月の天候の見通し」では、東北地方太平洋側の日照時間は平年並か多い。降水量はほぼ平年並、気温は期間全体（6/21～7/18）を通じて、高くなる見込みです。

2 管内の生育状況

（1）【6月20日調査結果】

移植が早いほ場では有効茎数が確保されています。
中干しを行い、適正な茎数を管理しましょう。

- ・南部平坦の「ひとめぼれ」は、草丈は「長く」、葉数と葉色は「平年並」の生育となっています。茎数は有効茎数に達しています。

3 今後の管理

【 水 管 理 ・ 中 干 し 】

- ・有効茎数を確保したら、中干しをしましょう。
- ・穂数（≡㎡当たりの総穂数）を適正に管理することで、高温下でも品質低下を防ぐことに繋がります。
- ・中干しは、有害ガス等の有害物質除去による根の活力向上、無効分げつの発生抑制や土壌物理性の改善に有効です。
- ・中干しの程度は、田面に小さな亀裂が入り、足跡が付く程度の固さまでとし、※「幼穂形成期」の前までには終わるようにしましょう。
- ・中干し終了後に急に湛水状態にすると土壌の還元が進み、酸素不足による急速な還元により根を傷めやすくなります。中干し終了直後の最初のかん水は少なめ（「走り水」程度）とし、
間断かん水に移行していきましょう。

※幼穂は穂が出る 25 日前頃からではじめます。

【 病 害 虫 防 除 】

「葉いもち」

- ・葉いもち病は生育不良を招いたり、穂いもちの発生を助長することで減収・品質低下につながります。
- ・水田をこまめに見回り、早期発見、早期防除に努めましょう。

❑ **残苗**（補植用残苗）は、**必ず!!すぐに!!処分!!**

残苗を放置するといもち病の感染源となり、葉いもちの発生を助長する可能性があります。早急に処分しましょう。

❑ **葉いもち予防剤を箱施用していない場合。**

葉いもち防除は予防防除の効果が高いので、早急に粒剤を散布しましょう。

【 雑 草 防 除 】

- ・残草が目立つ場合は、後期除草剤などの利用による除草管理を徹底しましょう。
- ・斑点米カメムシ類は、ヒエやイヌホタルイ等の雑草を求めて水田内に侵入していきます。出穂前から斑点米カメムシ類が侵入するのを防ぎましょう。
- ・斑点米カメムシ類の発生を抑制するため、7月中旬までにはほ場周辺の休耕田や土手・畦畔等の除草に努めましょう。**令和6年度はカメムシ類の発生が多かったことから、事前の対策が重要です。**

❑ 最新情報で農薬登録を確認のうえ、使用してください。

❑ 農薬使用の際に飛散防止対策を講じましょう。

4 直播栽培における管理のポイント

【6月20日調査結果】

○水稻直播き栽培（鉄コーティング湛水直播き（点播）：品種「ひとめぼれ」）

- ・草丈は平年並、葉数はやや多く、葉色はやや濃くなっています。
- ・茎数は前回調査時（50.8 本/㎡）からあまり増えていませんが、今後も高温と好天が予報されていますので、茎数の増加が期待されます。水管理を徹底して生育量確保に努めましょう。

表3 生育調査結果（6月20日）

ほ場所在地	品種	播種月日		苗立数(本/㎡)		草丈			茎数			葉数			葉色		
		本年	平年	本年	平年	(cm)	平年値	平年比	(本/㎡)	平年値	平年比	(枚)	平年値	平年差	(GM)	平年値	平年差
蔵王町	ひとめぼれ	5/9	5/10	50.8	58.3	26.2	26.7	98%	88	204	43%	7.2	6.7	+0.5	43.3	42.3	+1.0

【水管理】

- ・葉色が濃く、水温を上昇させることで、分げつの発生が促進されやすい状況です。浅水管理を徹底しましょう。
- ・目標穂数（ひとめぼれ：450 本/㎡）の 80%程度の確保に向けて、管理を徹底しましょう。（畝間30cmで1mあたり「120本」だと「400本」になります。）

【雑草防除】

- ・ほ場に残っている雑草の種類と葉齢や稲の葉齢を確認し、適切な剤を選んで、適期に処理しましょう。

【いもち病防除】

- ・播種同時施用や種子処理剤の施用を行っていない場合は、粒剤による防除を、今月末までに行いましょう。
- ・直播栽培では、いもち病が移植栽培より急激に広がる事例がありますので、こまめに確認し、早期発見、早期防除に努めましょう。

○令和7年度宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）

- 農薬の使用に当たっては、
農薬のラベルをよく読み、周辺へ配慮し、飛散防止対策を徹底しましょう！
- 最新の農薬情報は、農林水産省ホームページで確認できます。
(https://www.aff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/index.html)



○春の農作業安全確認運動展開中（～6/30まで）

- トラクター等の自走式農業機械を操作するときはシートベルト、ヘルメットの着用を徹底しましょう。